

第11回国際委員会

日時: 9月17日(火)

場所: ナゴヤ イノベーターズ ガレージ

参加者: 委員長の**大島副会長**をはじめ**36名**



本委員会は、今年2月に中部圏で活躍する外国人の意見を集約した「海外から見た

中部圏の魅力向上」を発表した。その中から抽出した「中部圏の多様化」「内なるグローバル化」の2つの課題にいかに対応していくかという観点から、「有能外国人材の中部圏での活躍」を今年度の活動テーマとした。具体的には、専門家を迎え、行政・教育・社会全般における多種多様な課題整理を行っていく。

今回は、一橋大学大学院社会研究科教授の小井土彰宏氏を講師に迎え、「内なる国際化の新段階 - 外国人材の受け入れと共生のための課題と戦略」と題して講演いただいた。小井土氏は、これまでの日本の移民政策と入管法改正の関係、諸外国における多段階的移民選別の歴史と日本の課題、多文化共生政策の課題などについて、具体的な数値や事例を交えて説明を行った(本誌12月号に講演要旨を掲載予定)。

(国際部 平山 りえ)

第46回Next30産学フォーラムneo

日時: 9月24日(火)

場所: ナゴヤ イノベーターズ ガレージ

参加者: **21名**

今回は、名古屋学院大学経済学部准教授の佐々木健吾氏および中部大学工学部准教授の宮内俊幸氏による講演とワークショップを行った。

佐々木氏は、「わたしの脳はデータラメだらけ・・・?」と題して、合理的経済人とはどのような個人を示すかを紹介した。



佐々木氏からの問いに答える参加者

ワークショップでは、参加者に対する択一クイズを通じて、自分たちが日常行っている選択や判断を経済学の視点で解き明かし、人は錯覚や思い込みで選択を行い、時には判断を誤ることを説明した。

宮内氏は、「七色の液でpHを測定しよう ~バイオマスの化学材料化とpHの関係~」と題して、植物由来バイオマスの化学材料化について解説し、化学が環境保護や私たちの生活を便利で快適な



pH測定実験の様子

ものにしてくれると紹介。その後、酢と重曹のpH測定実験を通じ、物質の特性と日常生活への有用性について学んだ。

(イノベーション推進部 美保 美恵)

地域産業活性化委員会および 長野・静岡地域会員懇談会

委員会および地域会員懇談会では、税制改正に対する意見、中部圏のイノベーション活性化、広域での連携・つながりの強化による中部圏の活性化などを議題に意見交換を行った。参加者からの主な発言は以下のとおり。

長野開催

日時: 9月24日(火)

場所: ホテルメトロポリタン長野

参加者: **豊田会長、山浦副会長、水野副会長**をはじめ**18名**

- イノベーション拠点はハードとしての場所の提供だけでなく、実施するプログラム等のソフトも重要であり、拠点間の連携により充実できると良い。
 - 地場産業をどのようにイノベーションにつなげていくかが課題。
 - 技術者が考える生産性向上はコスト削減を意識しがちだが、付加価値を高めることが重要。
 - 中部圏の強みは、ものづくりのデータを圧倒的に所有していることであり、膨大なデータを活用して新しい成長産業を創出することや、生産性を向上することが重要。
 - 生産性を向上し国際競争力を高めるためには、サプライチェーン全体の物流コストを考えることが必要。
 - 今後おそらく航空機産業は基幹産業として名古屋を中心に発展するが、長野県の製造業も一体となった成長を意識すべき。
 - IT産業は裾野が広いため、「信州ITバレー構想」等で振興できると良い。
 - 中部圏は良い意味で名古屋へ一極集中させ、各地に波及させていくことを打ち出してはどうか。
 - 中部横断自動車道の全線開通により、清水港が活用できる等、長野県と中部圏のつながりが強くなる。防災対策にもなるため、早期整備が必要。
- (長野担当 小笠原 慎)



公立諏訪東京理科大学
唐澤理事長

- は、安心して暮らせるコミュニティの問題も大事。
- 東名高速の日本平久能山スマートICが9月に開通し、周辺では開発が進んでいる。インフラが整備されることで新たな対流・交流が誘発されるため、今後もさらなる整備に期待。
- 新たに産業を集積させることに加え、その地域が持っているものを外に出して世界にチャレンジする“グローバルにデザイン”する発想も大事。
- 男性より女性の方が優秀と示すデータが多い中、“女性が働ける場がない”地域から優秀な人材が流出する”ことを認識すべき。
- 大手企業は大学の先端研究を上手く活用している。中小企業が大学の先端研究を活用するための工夫が必要。欧州では成功事例もある。



木内建設 木内社長

(静岡担当 和田 耕一郎)

第1回エネルギー・環境委員会

日 時:10月1日(火)

場 所:名古屋栄ビル

参加者:委員長の水野副会長をはじめ38名

はじめに、事務局より今年度の委員会の活動報告を行った。「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」のパブリックコメント募集に対する意見提出、「地球温暖化対策計画」見直しの動向調査、および地域エネルギーマネジメントによるスマート社会の実現に向けた自治体との対話等について活動状況を報告するとともに、今後の進め方について議論した。

続いて、経済産業省大臣官房審議官(環境問題担当)の矢作友良氏を講師に迎え、「環境政策について」をテーマに講演いただいた。

矢作氏は、気候変動問題に関し、6月のG20大阪サミットや9月の国連気候行動サミットでの

静岡開催

日 時:9月30日(月)

場 所:オークラアクトシティホテル浜松

参加者:豊田会長、中田副会長をはじめ20名

- セントレアのLCC向けターミナルが開業したことから、LCC利用者による浜松への旅行客増加に期待している。アクセスも強化したい。
- 外国人材の雇用に関して、ワーカー向けの施策は充実してきたがスタッフ向けの制度・施策が不足している。継続的に働き続けてもらうために

各国の主張内容、EU・米国・中国の動向等、今後注目すべき世界情勢について紹介するとともに、



講演後の質疑応答の様子

日本の温暖化政策の考え方・対応等について説明した。また、資源循環問題に関し、昨今大きな話題となっ

ている海洋プラスチックごみを巡る状況や廃プラスチック全体の有効利用等にかかる日本の対応、EU中心に議論が進んでいるサーキュラーエコノミーの動き等について説明した(本誌12月号に講演要旨を掲載予定)。

また、委員会終了後に、高レベル放射性廃棄物の地層処分について、原子力発電環境整備機構から説明を受けた。

(防災・環境部 亀井 敬)

中経連

ダイジェスト

とよたPR大使 表敬訪問



9月3日(火)、とよた元気プロジェクト実行委員会の三宅委員長(豊田商工会議所会頭)、とよたPR大使をはじめ8名が、豊田市の魅力を紹介するために中経連を訪れ、小川専務理事以下幹部らと懇談した。

とよたPR大使は、ラグビーワールドカップの開催に伴い、名鉄豊田市駅前周辺で行われるおもてなしイベントや、市内の飲食店・小売店向けに作成した外国人旅行者と指差しでコミュニケーションが取れる「外国人おもてなしツール」などを紹介。また、11月からはじまる香嵐溪のライトアップの開催告知とともに、「約4,000本ものモミジが紅葉する圧巻の姿をぜひ見に来てほしい」とアピールした。

(一社)とよたツーリズムの山崎専務理事兼事務局長は、「豊田市は、街なかにはアカデミックやアートなど最新技術を生かしたスポットが多彩にあり、一方、中山間部には小原の四季桜、松平東照宮など自然や歴史を楽しめるスポットが充実している。ラグビーワールドカップを機にさらなる観光振興に努めていきたい」と意気込みを語った。

(総務部 櫻井 景子)

日台経済貿易永続フォーラム

9月5日(木)～6日(金)、台湾・台北市にて開催された「日台経済貿易永続フォーラム」に、小川中経連専務理事が参加した。本フォーラムは、日本の経団連に相当する台湾の経済団体・中華民国工商共進会が主催したものである。

